

SCARTSの さまざまなサービス・機能

Services and Functions

SCARTSには、一人ひとりの創造性を支えるための、さまざまなサービスや機能があります。

具体的には、インフォメーションカウンターやインフォメーションコーナー、対面相談サービス、ウェブサイトでの情報提供を行っており、これらを総称して「文化芸術活動サポートサービス」と呼んでいます。

また、SCARTSの各施設を利用する場合にも、スタッフがサポートします。

文化芸術活動サポートサービス

◎インフォメーションカウンター／インフォメーションコーナー

札幌市内で開催される文化芸術イベントのチラシ類を配架しています。これらは市民からお預かりしたものです。窓口にはスタッフが常駐し、施設利用に関するお問い合わせや、文化芸術に関するイベントチラシの持ち込み、対面相談サービスへの取り次ぎ等に対応しています。

また、全国の芸術系公募事業や助成金に関する情報も収集し、募集要項等を配架しています。

◎対面相談サービス

SCARTSでは、市民の文化芸術活動に関する悩みにスタッフが応える「対面相談サービス」を実施しています。

「発表や活動の場を探している」「イベントの企画や告知の方法を知りたい」「助成金や公募の情報を教えてほしい」「アーティストや演奏家の紹介をしてほしい」といった、日々の活動での困りごとの相談に対して、担当スタッフが問題解決に向けて一緒に考えます。

利用は無料、1回1時間程度を目安とし、事前申込制です(SCARTSのウェブサイトから申込可能)。

◎ウェブサイトでの情報提供

SCARTSのウェブサイトでは、文化芸術に関わるさまざまな情報を提供しています。「さっぽろArt&Cultureインフォメーション」では、大通情報ステーションから提供されるイベント情報をもとに、札幌で開催される文化イベントの情報を発信しています。ジャンル、エリア、日付、キーワード別に検索できるほか、お気に入り登録やGoogleカレンダーへの登録も可能で自分好みのイベント情報を集めることができます。また、貸室のある札幌市内の文化施設やアートスペースの情報、助成金や公募の情報、アートボランティアの情報など、文化芸術活動に関わるさまざまな情報がウェブサイトに集約されています。相談サービスやインフォメーションカウンターと共に、一人ひとりの活動を支えるためのデータベースです。



SCARTSのさまざまなサービス・機能

一人ひとりの創造性をささえる

293

調査研究事業

SCARTSの活動の基礎として、開館準備の段階から調査研究事業を行っています。年ごとに集中的に調査研究をする内容を決め、実態調査や先進事例調査とその分析等をもとに、充実した情報提供やよりよい事業展開に生かすことを目指しています。また、その一部を報告書として公開することにより、他の文化施設などでも活用できるようにしていく予定です。

【調査事例】

2016年度 札幌文化芸術交流センター相談・活動支援事業に関する検討支援調査

開館後に予定している、アーティストへの活動の場の紹介や助成金などの情報提供を行う相談・活動支援事業に向け、実施体制などについて検討するための調査を行いました。

①他都市の類似施設での先進事例調査

アーツコミッショナ・ヨコハマ(ACY、横浜市)、ふじのくに文化情報センター(静岡市)、名古屋市文化振興事業団(名古屋市)、東山アーティスツ・プレイスメント・サービス(HAPS、京都市)、障害とアートの相談室(奈良市)の5施設に対する対面ヒアリング調査

②札幌市内の文化芸術団体、アーティスト、市民の相談・活動支援事業に対するニーズの実態調査

- ・文化芸術分野のバランスを考慮し無作為に抽出した文化芸術団体30団体を対象とした対面ヒアリング調査
- ・札幌市在住でさまざまな分野で活躍するアーティスト10名を対象とした対面ヒアリング調査
- ・札幌市内で文化芸術活動を行う市民200名を対象とした簡易アンケート及び対面ヒアリング調査

2017年度 札幌市内の文化芸術施設等及び文化芸術団体に関する調査

相談・活動支援事業を円滑に実施するための情報収集などを目的として、札幌市内の文化芸術団体および文化施設等に関する調査を行いました。

文化施設等については、札幌市内のホール、美術館、博物館、ギャラリー、イベントスペースなどの244施設を対象にアンケート調査票を郵送し、183件を回収。そのうち、情報公開可能な164件について、文化芸術活動サポートサービスの一環として公式ホームページに詳細なデータを掲載しています。

2019年度・2020年度 文化施設におけるアーカイブ事業の展開に関する調査

SCARTSや札幌文化芸術劇場 hitaruにおける事業アーカイブにとどまらず、文化芸術活動に関わる多くの人が活用できるアーカイブ事業の展開に向けての基礎調査を、2年にわたり実施しました。

①アンケート調査(2019年度)

文化芸術に関するアーカイブ事業を実施している全国の文化施設及びリサーチセンター等40施設に対して調査票を送付

②ヒアリング調査(2019年度)

チラシ等印刷物に対する独創的なアーカイブ事業の実施事例として、築港ARC(大阪市)と「山下さんちの資料(アーカイブ)を持って帰る展」(京都市、2014年)について対面ヒアリング調査

③ヒアリング調査(2020年度)

文化芸術に関するアーカイブや、対外的な発信にも定評のある事例として、アーツカウンシル東京、山口情報芸術センター YCAM、せんだいメディアテーク、アーツコミッショナ・ヨコハマ(ACY)へのヒアリング調査

◎施設利用のサポート

札幌市民交流プラザの施設を利用される場合、SCARTSコート、SCARTSスタジオ、SCARTSモールの利用についてはSCARTSのスタッフが応対します。展覧会、音楽会、シンポジウムなど、企画内容にあわせて機材や設備の利用方法、展示物の設置方法などをSCARTSのテクニカルスタッフがアドバイスすることもあります。

【利用可能施設】

SCARTSコート

発表や交流の場として活用できるオープンスペースです。ミニコンサートや講演会、可動式の展示パネルを活用した作品展示など、各種イベントに幅広く利用されています。また、音や光を遮る可動壁を設け、独立した空間としても活用できます。

面積:165m²/天井高:5.3m(グリッドパイプ下端)/床:ビニル床タイル/楽屋設備:1室/収容人数:最大150名



SCARTSコート

SCARTSスタジオ1・2

創作活動に適したガラス張りの多目的スペースです。ワークショップや各種講座を行うことができるほか、作品の展示空間としての利用も可能です。また、2室つなげて利用することもできます。

面積:各82m²/天井高:3.7m(固定バトン下端)/床:ビニル床タイル/収容人数:最大60名(スタジオ1)、最大57名(スタジオ2)



SCARTSスタジオ1・2

SCARTSモールA・B・C(1階・2階)

多くの市民や観光客にアピールできる屋内広場です。プロモーションイベントや物品販売などのほか、作品展示にも利用できます。

A・B(1階) 面積:各60m²/天井高:5m(吹き抜け部あり:18.1m)
C(2階) 面積:60m²/天井高:10m



SCARTSモールA・B



SCARTSモールC

Technical Staff

SCARTSには、会場の設備に精通し、展示の設営や技術開発を専門とするテクニカルスタッフがいます。主催の美術展などでは、会場構成のデザインや造作物の設計、作品制作の技術的なサポートなど、制作に関わる技術的な部分を広く担当しています。また、市民の皆さんも施設を利用される場合にも、一人ひとりの企画イメージに寄り添い、技術面でのアドバイスやサポートを行っています。

●貸し館利用者をサポートし、企画イメージに近いものへ

必要機材の貸し出し手配や使用方法の説明はもちろん、会場のレイアウトや照明・音響設備に関する相談の対応など、企画の内容や利用者のイメージに合わせてさまざまなアドバイスやサポートを行っています。
また、「SCARTSでイベントを行ってみたい」、「SCARTSでどんなことができるのか知りたい」といった声に応えるため、SCARTSの利用を検討されている方向けの施設見学説明会を行っています。「演奏会スタイル」「展覧会スタイル」など、各回、想定されるイベント形式でのレイアウト例を公開し、会場設備や使用可能機材等を実際に見ていただけるようにしています。

「SCARTSオープンDAY」

【開催例】

Vol.1「演奏会スタイルの見本」(SCARTSコート)

2019年7月8日(月) 10:00～17:00 公開設営

2019年7月9日(火) 10:00～18:00 活用方法見学会



「演奏会スタイルの見本」



「展覧会スタイルの見本」



「作品展スタイルの見本」

●展覧会や作品制作を技術面で支える

SCARTSで開催される展覧会等の事業にあわせて、さまざまな業務を行っています。展示会場のデザインや必要な什器の設計を行うこともあれば、展示会場の造作に関して外部の専門家や業者とやりとりをしながら調整し、現場指揮をとることもあります。またアーティストのアイデアを実現するためにシステムを構築したり、アイデアを出したりと、作品制作に直接関わることもあります。施設の設備状況や機材、テクノロジーに精通しているからこそ、さまざまな方法を提案することができるのです。スタッフそれぞれの技術や知識を常にアップデートしながら、技術面から事業を支えています。



展示造作の細部の調整やチェックを行う



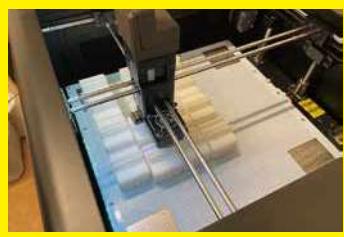
アーティストと意見をすり合わせながら
展示什器や会場の設計を行う



作品を動かすためのプログラムの
設計や調整を行う



施工業者と連携して展示会場を設営する



必要部材を設計し、
3Dプリンターなどで制作することも



機材を調整し、アーティストの制作環境を整える